

平成 28 年度

地球環境「自然学」講座

第 2 回

テーマ

日本林業再生の道

講師

清光林業株式会社 会長

岡橋 清元 先生

平成 28 年 4 月 23 日 (土)

NPO 法人・シニア自然大学校

講師プロフィール



岡橋清元

おかはし・きよちか

1949(昭和24)年、奈良県橿原市生まれ。吉野林業地で代々山林を経営する清光林業株式会社代表取締役(創業家当主)。林業の修業先で路網の必要性を痛感し、1979年所有林で道づくりに取り組むが、大規模崩壊が発生し中断。翌年道づくりの講師として吉野を訪れた大橋氏と出会い師事。氏の指導のもと、自らが現場に立って先の崩壊地の道を修復。以来、作業道づくりの実績を積み上げ、伝統ある林業地で新しい山林経営を行っている。

吉野の林業

清光林業株式会社 岡橋清元

- 吉野で人工植林がはじまったのは後南朝終焉後
- 戦国時代を経て織田・豊臣・徳川時代へと
- 江戸時代中期頃吉野林業の基盤を築く山守制度が確立される
- 明治 31 年土倉庄三郎の監修の元「吉野林業全書」が世にでる
- このころ吉野林業の造林・育林・伐採技術が世界に認められる
- 吉野林業の特徴は密植造林・多間伐施業・長伐期施業
- 吉野川（和歌山県橋本より紀ノ川）の整備により筏移送が盛んに
- 密植造林の効果のため年輪幅が均一で細かいため樽丸材に
- 樽丸材をはじめ間伐材が飛ぶように売れた。
- 明治・大正・昭和初期 樽丸林業の最盛期
- 昭和の時代に近代化がより進み代替品が出回り、樽丸林業は終焉
- 吉野材は樽材から優良建築材へと移り行く
- 戦後復興住宅等で空前の木材ブームで吉野も活況を呈す
- 昭和 40 年代頃ヘリコプターによる初めての集材作業が行なわれた
- 木材ブームは昭和 57 年まで木材価格の右肩上がりは続く
- 昭和 57 年をピークに木材価格は右肩下がり続ける
- 平成 10 年超大型 7 号台風で吉野は大被害を受ける

- 風倒被害木が市場に出回り品質悪化のため木材価格暴落
- 木材に対する人びとの価値観の変化も追い打ちし更に暴落
- 安い輸入材が国産材を苦しめていると言われていた神話が崩れる
- 国産材と輸入材の価格の逆転 ついに国産スギは世界一安価に
- 木材・林業界がやっとそのことに気付き林材界再生に動き出す
- 木材ブームに浮かれたときのつけが今 林道・作業道の遅れ
- 高コストに低価格 高齢林の伐採でも採算割れ
- 主伐あとは植林放棄の放置林 伐り控えで間伐不足林の増加
- 過疎化・高齢化そして放置林の増加で野生動物の異常繁殖
- 森林生態系に異常をきたすニホンジカの大繁殖で森林の危機
- 吉野林業の再生には吉野材の販路の拡充と路網等の基盤整備
- 温暖化などによる異常気象に対応できる路網整備「壊れない道」
- 森林環境を守り何時でも通れ何時でも使える壊れない道づくり
- 路網整備によって林業を生業とし過疎や高齢化を食い止める
- 老若男女が楽しく働ける環境づくり
- これまでの慣習を改めて「顔の見える林業に」
- 必要な物を必要な時に必要な量だけ生産する林業を目指す